

季 刊

生活

第 2 号



Quarterly: SEIKATSU 2

Issue: New

生活工房
Lifestyle Design Center

特 集

おニユ一

2019

7・8・9

今年も夏がやってきました。

この夏も生活工房は、みずみずしい目線で日常を捉えることができるような、さまざまな企画に取り組んでいます。

「季刊生活」第2号では、繰り返される日々のなかにも新しさを見出す感覚に、焦点を当てました。

巻頭特集は、展覧会「家族って しまおまほと家族、その記憶と記録」をピックアップ。展覧会に先駆けて、しまおさんとご家族が書き下ろしエッセイを寄せてくださいました。

なにかを「新しい」と感じることで、それが新しい生活の始まりなのかもしれません。

もくじ Contents

- 03 エッセイ 「家族って」
Essay The Essence of Family
- 08 あたらしくてふるい、お洋服
- 09 世田谷のおとなりさん②
“世田谷区桜上水の海老沢さん”
- 10 生活工房のイベント Event Guide
- 15 生活工房のご案内 Access Guide

cover photo: Shinzo Shimao

第2号の特集は、おニュー

新しい洋服や靴をおろしたとき、「おニューだね!」と親しみとも冷やかしくもつかないような友人とのヤリトリの記憶。はたまたOLD&NEWを略して「おニュー」……。

しまおまさんが綴る、家族や友人たちまつわるエッセイにはそんな甘酸っぱさや過去と現在を行き来する時間の流れがあります。2019年9月に生活工房ギャラリーで開催するしまおさんの家族をめぐる展覧会のプロローグとして、



この冊子では、しまおさんとご両親（ともに写真家である島尾伸三さんと潮田登久子さん）にしまお家のエピソードを紹介してもらいました。

そのほかに、P8～9では、世田谷区内の古着屋さんと区民の方が登場。OLD&NEWの魅力が詰まったストーリーを紹介します。

あなたとご近所さんとの出会いが、季刊生活から生まれますように。



家族って

しまおまほと家族、その記憶と記録



2019年9月に開催する、
エッセイストのしまおまほさんとその家族をめぐる展覧会。

今号の特集では、「しまお家」の紹介をかねて、
しまおさんご両親（島尾伸三さんと潮田登久子さん）に、
家族をテーマにエッセイを寄せていただきました。

「家族って……」。そんな展覧会への導入となるような、
しまお家の日常をのぞいてみましょう。

illustration: しまおまほ



社会の移り変わりやライフスタイルの変化にともない多様化する家族のあり方。人それぞれに異なる“家族像”が描かれる現代において、エッセイストのしまおまほさんと家族について考えます。

2015年に出産し、現在母子で暮らすしまおさん。両親や祖父母との記憶や記録、そして出産を経て更新された家族のカタチを紐解きながら、“しまお家”を通じて家族について探ります。

● 家族って しまおまほと家族、その記憶と記録

9.21 (sat) ~ 11.10 (mon) 9:00 ~ 21:00 入場無料
月曜休み（祝日はのぞく）会場：生活工房ギャラリー

As our societies and lifestyles change, the idea of family becomes more diverse. In this age, the ideal “family model” is painted differently for each person. Together with essayist Maho Shimao, we consider what family is. Since giving birth in 2015, Ms. Shimao lives with her child. While untangling the memories and records of her parents and grandparents, as well as the structure of her family newly renewed after childbirth, she reflects on the “Shimao Household” to explore the ever-changing notion of family.

家族の食べる顔

しまおまほ

息子が生まれて家を出るまで、ほとんど毎日のように家族3人で食卓を共にしていた。3人そろって自由業なものだから家にいることが多く、生活サイクルもほぼ同じなのだ。

夜更かしの父とわたしが起きるのはお昼近くになってから。早く起きて先に朝食を済ませた母は、わたしたちの朝食を昼食として一緒にテーブルにつく。

トースト、野菜スープ、ウインナーと野菜の炒め、6pチーズ、ピクルス、母の作ったジャム、はちみつ、ピーナッツバター。父と母の好物ホワイトアスパラの瓶詰は、苦手なのでわたしは食べない。母は焦げ目が好きでわたしの皿に一番焼けたパンをのせてくれる。父にはウインナーを一本多くよそう。

「牛乳ないの？」

「スープがあるじゃない」

「スープは飲み物と違うんだよ」

「水しかないわよ」

「水じゃなあ……」

「じゃあ、自分で買いなさいよ」

わたしと母の小競り合いには口を挟まない父。3人であだこうだ話をしながら、喧嘩しながら、大笑いしながら。…時には泣きながら食べたことだってある。毎日、家族の食べる顔を見ていた。

今、わたしは息子とふたりで暮らしている。朝7時前に起きて息子と自分用におにぎり、余裕があれば、卵焼き、ウインナーまたはベーコン。息子は野菜嫌い。起き抜けに苦手なものを食べさせるのは至難の技…だからパス。バタバタと準備を済ませ、あつというまに家を出る。果たして毎日これでいいのかしら、と時々心配になる。

息子を送って、家で洗濯したり、ご飯粒のついた食器を洗ったり。ヒマがあれば両親のいる豪徳寺へ。ちょうど昼すぎ。両親は食卓についていた。父は朝ごはん、母は昼ごはん。トースト、野菜スープ、6pチーズ。わたしも玄関からそのまま、キッチンテーブルへ。

焦げたトーストが目前の皿に運ばれる。家族分のスープをわたしが取り分ける。

「いただきます」

結局、3人で食べているなあ。なんだか申し訳ない気持ちになったり、それもウチらしいかな、と思ったり。

「顔にブツブツができてるゾ」

「髪、切りなさいよ」

顔を見るなり、悪態をつくふたり。まったく、うるさい親だ。



photo: Maho Shimao

しまおまほ

エッセイスト。1978年東京都生まれ。多摩美術大学卒業。雑誌やウェブにてエッセイや漫画、イラストを発表しており著書も多数。2015年に第1子を出産。子育てをしながら執筆活動をしている。



photo: Shinzo Shimao

子どもの通帳と光熱費

島尾伸三

登久子さんと私の楽しい生活は、いつの間にか40年経ちましたが、お互いの残高をいまだに知らぬままです。

40年前、長女・マホが産まれるとすぐに通帳を作りました。それは、定職のない私が、子どもにいただいたお金を、飲み代などに使い込まない為です。登久子さんからもらった中型カメラとレンズ(ハッセル・ブラッド)をその日のうちに売り飛ばして、カメラ仲間と飲み干してしまおう自堕落な私なので、自分自身に信用がないのです。

マホはその後、お年玉や七五三のお祝いなどで貯金して、父親の私より小金持ちになりました。

小学2年生になったマホが、ある日、自分の通帳を眺めて、登久子さんに疑問を呈しました。

「給食費は私が食べるからいいけど、おかあさんのPTAに、なんで私が払うの」。登久子さんは答えました。

「私はマホちゃんの為にPTAに行っているのよ」。2人は少し問答をしましたが、マホは納得したようでした。

これは、私たちが子どもの教育の為にやった事ではありません。登久子さんも私も収入が微々たるもので、借りて住んでいる部屋代さえ払えそうにない月があったりするので、こうするしかなかったのです。

幼稚園、小中学校、高校までの教育費は、その自分の貯金でまかかっていました。お金って、無駄遣いしなければ、貯まっていくことを教えられました。

やがて私たち3人は、光熱費を分担するようになりました。台所に立つ登久子さんはガス料金、夜更かしするマホは電気料金、ずるい私は隔月で支払う安い水道料金にしました。

マホは一家を構え独立し男の子が産まれたので、預金通帳を作るよう提案しました。おとなたちの都合で、お祝いなどを勝手に使わないためです。マホが居なくなった家の電気料金は私が払うはめになりました。ずるしていた罰が当たったようです。

島尾伸三 しまお・しんぞう

写真家、作家。1948年兵庫県生まれ。1974年東京造形大学造形学部写真専攻科卒業。著書に『小高へ 父 島尾敏雄への旅』『中華幻紀 島尾伸三写真集』『東京～奄美 損なわれた時を求めて』など。

大きな箱の中の3人

潮田登久子

生まれたばかりの娘・マホと、夫の島尾伸三との3人の生活は、世田谷・豪徳寺にある西洋館2階の1室から始まりました。20畳ほどの部屋に3メートル余りある高さの天井から蛍光灯が1灯ぶら下がっていました。室内の台所といえば青いトタン張りの机の上に古ぼけたガスコンロが1台あるだけです。部屋の片隅には簡易な作りの押し入れが置かれている、素っ気のない部屋でした。

トイレ、炊事場、洗濯場は階下にあって共同です。トイレ、廊下、階段は住人が交代で掃除をする事になっていました。

夫がどこからか中古のスウェーデン製の冷蔵庫を4万円で見つけて来ました。それは3人の生活にはいかにも不釣り合いなほどの大きさです。2ドア式の扉を開けると、上の棚では洞窟状に氷がこびり付いてしまっていて、時折木槌で氷の塊を叩き砕き、外へかき出さねばならぬ代物でした。電化製品はこれ以外には、テレビも掃除機もありませんでした。

彼はテレビの形を真似た1950年代の木箱の古いラジオを大切にしていました。スイッチをひねると真空管がゆっくりと暖まり、やがてぐもった声のFEN放送が喋り出します。ラジオの正面はテレビの画面の形をしていても、何か映るわけではありません。ゆったりと流れる音楽に包まれ満足げにしている夫は、「ボクはこんな生活がしたかったんだ」といわんばかりです。

月に1、2本程度しか仕事が飛び込んで来ない2人は、フリーターのよ様な暮らしでした。

3、4歳になったマホは、窓にしがみついて窓越しに隣の家の豆粒のようにしか見えないテレビの子ども向け番組をジッと眺めていました。

大きな箱の中の3人は、有り余る時間の中で、太陽と月と星と、雨と風の恩恵をたっぷりと授かりました。

子どもがどこからか拾って来た石ころが大切な宝物になり、庭に落ちていた青い梅の実を窓辺に並べ、白いハト、黒いウサギ、バッタなどの訪問を喜び、近所の小さな子ども達が毎日のように部屋の中で遊び回っていました。

30年以上経った今、大きな箱の中での体験のひとつひとつが、私の身体に染み込んでいることに気づきます。



photo: Tokuko Ushioda

潮田登久子 うしおだ・とくこ

写真家。1940年東京都生まれ。1963年桑沢デザイン研究所リビングデザイン研究科写真専攻卒業。2018年に写真集『本の景色 BIBLIOTHECA』で第37回土門拳賞を受賞。そのほかの写真集に『冷蔵庫 ICEBOX』など。

世田谷に店を構える店長さんが特集テーマにまつわる物語を綴ります。

コラム あたらしくてふるい、お洋服

世田谷区三軒茶屋にある古着屋「ZIG」のオーナー
谷口真央さんと麻衣さんに
年月を経て魅力が深まっていく「古着」の世界を
お話しいただきました。



谷口さんが
初めて購入した
「LEVIS」の
ヴィンテージ
ジーンズ

私達が古着に興味を持った理由は、
自分が生まれる以前に流行った
カルチャーに注目したことが
きっかけでした。

ファッションや音楽の流行は、
ある一定の周期で繰り返されるとよく耳にしたいと思います。
毎年S/S(春夏)、A/W(秋冬)として発表されるコレクションで
リバイバルされた年代のアイテムは、
そのシーズンのトレンドになります。
それは極端な話、昨日まで一部のジャンルの人しか
好んで着用していなかったアイテムが、
今日から大勢の人の“今着たい服”に変わります。
これこそ、古着が新しい感覚で受け入れられた瞬間で、
私達がお客様にその時代背景や
カルチャーにまつわる物語をお伝えしながら、
新たなファッションの提案が出来る時だと思っています。

50s USA
総手刺繍の
ワンピース



ZIG usedclothing

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂3-18-6 1F
古民家をリノベーションした店内でメンズ・レディースのヴィンテージ
アイテムを豊富に展開しています。24:00まで営業していますので、
ぜひお立ち寄りください。

「おにぎり」を手がかりにして、区内に住む人々を訪ねていきます。

連載コラム 世田谷のおとなりさん②



海老沢さん ある日のおにぎり

世田谷区桜上水にお住まいの海老沢さんは、世田谷区内で『HANA』
というスペインバルを営んでいます。スペイン料理の世界に飛び込んで
4年。さまざまなお店で修業を積んで、2年前にカウンターだけの小
さなお店をオープンしました。

由来はなんと“歯ない”

研究熱心な海老沢さん、現地を訪れては本場の味や盛り付けを学んで
います。この日は、1月に訪れたスペインを思い出しながら、おにぎり
づくりです。パルセロナで食べたツナのコンフィとアイヨリソースは、
大好きなツナマヨのおにぎりを連想させました。

「料理人になる前は、おにぎりって買うものだと思っていましたが、
今はつくるものになりましたね」。

…今回のおにぎりはツナから手づくりです！

じっくり時間をかけて作ったツナとスペイン料理の定番アイヨリソース
を合わせます。現地ではパンや卵にのせて食べましたが、ごはんと一緒に
にぎってみれば、ありそうでなかったツナマヨ。昔ながらのオーソ
ドックスな風貌のなかに新しい味がかくれていました。



photo: 河内瑠璃

〈海老沢さんのレシピ〉

ツナのコンフィ(A)

- ・まぐろの切り身…80g
- ・油…適量
- ・塩…少々

ごま油も
合うそうです

アイヨリソース(B)

- ・卵黄…1コ
- ・オリーブオイル…大さじ1
- ・んにく(すりおろし)…小さじ1
- ・紫玉ねぎ(みじん切り)…大さじ1
- ・ブラックペッパー…少々

- ・のり…2枚
- ・お米…2合

〈つくり方〉

まずは、Aの“ツナのコンフィ”から。
まぐろの切り身に塩を振り
2~3時間おいたものと
たっぷりの油(常温)を鍋に入れて、
70°Cをキープしながら弱火で30分煮る。
※蓋付きの瓶などで約10日保存できるそうです。

Bの材料を混ぜ合わせて
アイヨリソースをつくり、
Aをくわえて具材は完成。

あとは好きなように
にぎります。

ワークショップ／セミナーの申込方法

- 電話 03-5432-1543
 - 往復ハガキ／メール [希望イベント名・希望日時・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、下記宛先まで]
- ハガキ: 154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー 生活工房宛
メール: info@setagaya-ldc.net (件名に希望イベント名を明記)

Exhibition

プライベート・コレクション展

6.15 (sat)～7.15 (mon) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み(祝日はのぞく) 会場:生活工房ギャラリー

世田谷の個人宅に佇む美術作品を紹介する展覧会。生活空間に溶け込んだ作品群と所有者へのインタビューを通して、暮らしと美術の接点に光をあてます。企画制作:藤井龍(美術家)

Exhibition: Private Collection

Closed on Mondays (2019 exceptions: Jul. 15) Admission Free
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

This exhibition features works of art displayed in homes in Setagaya. Through the works that blend into the living space and interviews with the owners, we focus on art that exists in daily life.



photo: Ryo Fujii

①カタログ・メイキング

7.14 (sun) 14:00～17:00 会場:ワークショップルームA

本展の非売品図録を製本するワークショップ。「綴じること」を柔軟にとらえた本のつくり方を学びます。

講師: Tanuki (本展デザイン担当) 対象: 中学生以上
参加費: 500円(材料費込、1冊贈呈) / 20名(申込先着)
申込: 電話かメール(P10参照)にて



design: Genki Abe (Tanuki)+せかい photo: Fuyumi Murata

②クロージング・トーク

7.15 (mon) 14:00～15:00 会場:生活工房ギャラリー

本展の最終日にギャラリートークを開催。企画制作の藤井龍さんに展覧会の裏側を伺います。

講師: 藤井龍 参加費: 無料 / 20名 申込: 不要、当日直接会場へ

Exhibition

トルコ・トカットの木版〈バスク〉展

7.20 (sat)～9.1 (sun) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み(祝日はのぞく) 会場:生活工房ギャラリー

600年の歴史を持つバスク(木版プリント)で有名なトルコ北部・トカット。さまざまな木版とスカーフをはじめ、制作風景の映像なども展示します。

特別協力: 野中幾美(「ミフリ」代表)

Woodblock printing "Baskı" of Tokat Province in Turkey

Closed on Mondays (2019 exceptions: Aug. 12) Admission Free
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

With 600 years of history, Tokat Province in northern Turkey is famous for Baskı (woodblock printing). Various woodblocks and scarves are exhibited, as well as images of the production process.



伝統的な柄の木版スカーフ
Woodblock printed scarf in a traditional pattern

①トークイベント「バスクの故郷・トカット～門外不出の伝統工芸」

8.3 (sat) 14:00～15:30 会場:ワークショップルームA

アンタルヤでトルコ伝統手工芸の店を営む野中幾美さんに、トカット地方とバスクの魅力についてお話しいただきます。

トーク: 野中幾美(「ミフリ」代表)

参加費: 500円(トルコのリンゴティー付き) / 50名(申込先着)
申込: 6月25日10:00より電話かメール(P10参照)にて

②関連上映会「トルコのお菓子和音楽、そしてラマダン」

8.4 (sun) ①13:30～14:45 ②15:15～16:30

会場:ワークショップルームA

上映作品: 「トルコのお菓子ヘルヴァ」(2006年/15分)、
「イスラムの断食 トルコ・カバコズ村」(1970年/12分) ほか
計4作品(いずれも国立民族学博物館製作)

参加費: 無料 / 各回50名(当日先着) 申込: 不要、当日直接会場へ

③ワークショップ「トルコの木版でつくるスカーフ」

①8.9 (fri) ②8.10 (sat) いずれも13:30～16:30

会場:ワークショップルームA

トルコ製のスカーフ用薄手コットンにお好きな木版を押し、彩色して仕上げます。

講師: 成原さと子(バスク屋さん) 対象: 高校生以上
参加費: 各回2,500円(材料費込) / 各回15名(抽選)
申込: 7月27日(必着)までにメールか往復ハガキ(P10参照)にて

④バスクをめぐるギャラリートーク

7.30 (tue)・8.4 (sun)・10 (sat) いずれも11:15～12:00

会場:生活工房ギャラリー

トーク: 野中幾美 参加費: 無料 申込: 不要、当日直接会場へ

※上記関連イベント開催日(7.30、8.3・4・9・10) いずれも11:00～17:00にワークショップルームAにて、木版スカーフ他トルコの手工芸品の販売会を行います。

Workshop

夏の子どもワークショップ2019

① 14歳のワンピース

7.26 (fri) ~ 28 (sun) 10:00 ~ 17:00 制作

8.24 (sat) 13:00 ~ 17:00 撮影会

会場：ワークショップルームA・B

14歳の心模様をデザインして生地にプリントします。その生地から仕立てたワンピースで記念撮影会も行います。

講師：飛田正浩 (spoken words project)

対象：中学2年生女子 参加費：4,000円 /

15名 (抽選) 申込：7月12日 (必着) までに

メールか往復ハガキ (①②④すべてP10参照) にて

14-year-old Dress Venue: Workshop Room A・B

Make a design that represents your 14-year-old soul and print it on fabric.

A commemorative photo session will be held wearing the dresses sewn from that fabric.



トーストストーリー

② ToaStory ~食パンに描く物語

8.1 (thu) ①10:30 ~ 12:30 ②14:30 ~ 16:30

会場：ワークショップルームA

“トーストアート”の美味しいワークショップ。食パンのキャンバスにオリジナルストーリーを表現します。

講師：森映子 (フードコーディネーター)

対象：小学3年生 ~ 6年生 参加費：1,000円 / 各回20名 (抽選)

申込：7月18日 (必着) までに往復ハガキにて

ToaStory ~ A Tale Painted on Bread Venue: Workshop Room A

A delicious workshop in “toast art.” Express an original story on a canvas of bread.



③ おはなしいっぱい

8.21 (wed) ~ 8.23 (fri)

11:00 ~ 15:00 (21日のみ11:30 ~)

会場：ワークショップルームA・B

おはなし会の夏フェス! 手あそび・読み聞かせなど、おはなしをおもいきり楽しむ3日間です。

共催：世田谷おはなしネットワーク

対象：幼児 ~ 小学生 (親子でも参加可、幼児は保護者と参加) 参加費：無料

申込：不要、当日直接会場へ

※詳細は7月中旬に生活工房ホームページでお知らせします。

So Many Stories to Tell Venue: Workshop Room A・B

It's the Story Club's Summer Festival! Three lively days to fully enjoy the story with activities like hand games and storytelling.



④ 日常探検LABO ~見えないものをデザインしよう編

8.31 (sat) 11:00 ~ 17:00

会場：ワークショップルームA

アート×科学×食の視点で暮らしのふしぎを探検します。「見えない空気」をデザインするワークショップです。

講師：日常探検LABO (おかだゆか、遠山美月、

西村隆之介、吉田貴寿) 対象：小学3年生 ~

中学生 参加費：1,000円 / 25名 (抽選)

申込：8月17日 (必着) までに往復ハガキにて

Everyday LAB ~ Let's design an invisible thing

Venue: Workshop Room A・B

Explore the wonders of everyday life from the perspective of art, science, and food combined. A workshop to design “invisible air.”



Event

手づくりアートの“のみの市” 世田谷アートフリマ vol.32

9.21 (sat)・22 (sun) 11:00 ~ 17:00 入場無料

会場：セミナールームA・B / ワークショップルームA・B / 市民活動支援コーナー

2日間で延べ160組のアーティストが集まる“ものづくりの祭典”。手作りの雑貨やアクセサリ、クラフト作品の販売やその場で体験できるワークショップもあります。

※詳細は8月中旬に生活工房ホームページでお知らせします。

Handmade Art “Flea Market” Setagaya Art Flea Market, vol.32

Admission Free

Venue: Seminar Room A・B, Workshop Room A・B, Community Corner

160 artists will gather for two days for this festival of handmade items. Visitors can purchase handmade goods, accessories, and crafts, as well as participate in hands-on workshops.



Exhibition

家族って しまおまほと家族、その記憶と記録

9.21 (sat) ~ 11.10 (sun) 9:00 ~ 21:00 入場無料

月曜休み (祝日はのぞく) 会場：生活工房ギャラリー

社会の移り変わりやライフスタイルの変化にとまない多様化する家族のあり方。人それぞれに異なる“家族像”が描かれる現代において、エッセイストのしまおまほさんと家族について考えます。

企画制作：杉本勝彦

The Essence of Family

Memories and records of Maho Shimao and her family

Closed on Mondays (2019 exceptions: Sept. 23, Oct. 14, Nov. 4) Admission Free
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

As our societies and lifestyles change, the idea of family becomes more diverse. In this age, the ideal “family model” is painted differently for each person. Together with essayist Maho Shimao, we consider what family is.



photo: Shinzo Shimao

トークイベント「家族を記すこと しまおまほと植本一子」

10.5 (sat) 14:00 ~ 15:30 会場：ワークショップルームB

写真家であり、家族に関する著作やエッセイも多い植本一子さんとともに、自身の家族やその生活を描くことについてお話しいただきます。

講師：しまおまほ、植本一子 参加費：1,000円 / 50名 (先着)

申込：8月25日10:00より電話かメール (P10参照) にて

News

若手アーティストを奨励・支援する芸術賞

第6回世田谷区芸術アワード飛翔・生活デザイン部門

「生活」をテーマにしたオリジナルの作品（立体、平面、ファッション、映像、ミクストメディア等）の展覧会企画を募集します。

審査員：金森香（プロデューサー、イベントプランナー）、高田唯（グラフィックデザイナー、アートディレクター）

主催：世田谷区、（公財）せたがや文化財団

対象：15歳以上35歳以下の個人かグループ（2019年4月2日現在）

受付期間：5月25日～9月6日

※募集要項や詳細はホームページでご確認ください。

An Art Award to Encourage Young Artists

The 6th Setagaya Art Award: HISHOU, Lifestyle Design Division

Taking applications for exhibition plans of original works on the theme of Lifestyle (three-dimensional, graphic, fashion, video, mixed media, etc.)



第3回受賞作品「渋谷-made in shibuya product-」橋倫央
The 3rd Award Winning Work: Shibuya-made — Made in Shibuya Product, Michio Tachibana

Seminar

朗読講座 豊かなことばの世界

①水曜講座（午前・午後）〈名作を読む〉

6.26 (wed)・7.3 (wed)・10 (wed)・24 (wed)

各回 10:30～12:30 / 13:30～15:30

講師：岩井正（NHK日本語センター）

作品：梶井基次郎著『檸檬（れもん）』

②木曜講座（午後）〈はじめての朗読〉

6.27 (thu)・7.4 (thu)・11 (thu)・18 (thu) 各回 13:30～15:30

講師：秋山隆（NHK日本語センター）

作品：角田光代著『ロック母』

③金曜講座（午後）〈はじめての朗読〉

6.21 (fri)・28 (fri)・7.12 (fri)・26 (fri) 各回 13:30～15:30

講師：金野正人（NHK日本語センター）

作品：清水義範著『バスが来ない』

会場：セミナールームA

ことばの持つ豊かさ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。

NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

受講料（4回分）：一般20,500円、せたがやアーツカード会員18,500円／各クラス15名（申込先着） ※応募者僅少のため、閉講になる場合があります。

問・申込：（一財）NHK放送研修センター

TEL 03-3415-7121（受付時間9:00～18:00） HP <http://www.nhk-cti.jp/>

Recitation Course: A World of Abundant Words

① Wednesday Course (morning - afternoon): reading masterpieces

② Thursday Course (afternoon): beginners recitation

③ Friday Course (afternoon): beginners recitation

Venue: Seminar Room A

生活工房は

世田谷区が設置したユニークな文化施設です。

デザイン、文化、環境などをテーマに、展示やイベントを開催しています。

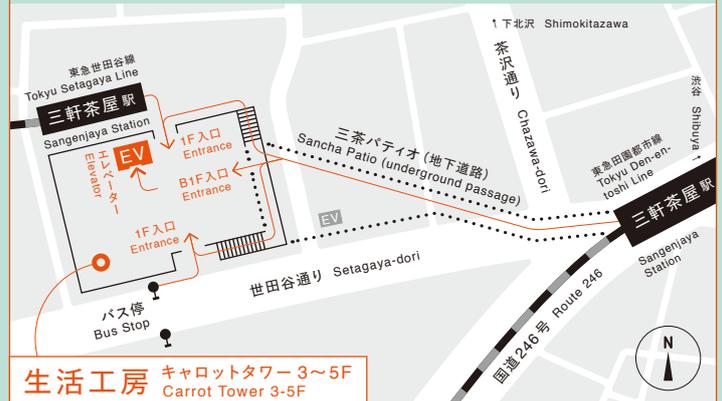
また、コミュニティ・キッチンをはじめ、展示、ワークショップ、セミナー、ミーティングなどに利用できる部屋の貸出を行っています。

The Lifestyle Design Center is

a unique cultural facility established by Setagaya city.

Exhibits and events are held on themes of design, culture, environment, etc.

We have a community kitchen and rooms for exhibits, workshops, seminars, and meetings available to rent.



生活工房 キャロットタワー 3～5F
Carrot Tower 3-5F

アクセス

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ口 徒歩5分
地下通路より1F入口またはB1F入口（東急ストア入口の右隣）に入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅直結
- 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

Access

- Tokyu Den-en-toshi line: 5-minute walk from the Sancha Patio exit at Sangenjaya Station
Subway passage: 1F or B1F entrance, take the elevator inside Carrot Tower
- Tokyu Setagaya Line: directly connected to the Sangenjaya Station
- Tokyu Bus, Odakyu Bus: located near the Sangenjaya Station stop



季刊生活 第2号

発行日：2019年6月15日

編集：生活工房 石山那緒子

編集協力：杉本勝彦

デザイン・編集協力：牧寿次郎

翻訳：株式会社インターブックス

印刷：三永印刷株式会社

発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

Quarterly: SEIKATSU 2

Issue date: June 15, 2019

Editor: Lifestyle Design Center Naoko Ishiyama

Editing Cooperation: Katsuhiko Sugimoto

Design, Editing Cooperation: Jujiro Maki

Translation: Interbooks Co., Ltd.

Printing: SANEI PRINTERY CO., LTD.

Issued by Lifestyle Design Center, Setagaya Arts Foundation

もし、みえない誰かの生活と、ここで偶然出合ったら、
そこから、何が読めるでしょうか？

何もないようで、いつも何かが起きている
季刊生活はあなたと誰かの日常を、
行ったり来たりする回覧板です。

If you happen to encounter the unseen life of another,
what, then, would you discover?

It may feel like nothing,
but something is always happening.
Seikatsu Quarterly is like a bulletin board,
traveling back and forth between your daily lives.

お問い合わせ (公財) せたがや文化財団
世田谷文化生活情報センター

生活工房

〒154-0004
東京都世田谷区太子堂4-1-1
キャロットタワー
Tel 03-5432-1543
Fax 03-5432-1559
Mail info@setagaya-ldc.net

Contact Lifestyle Design Center
Setagaya Arts Center
Setagaya Arts Foundation
Carrot Tower, 4-1-1 Taishido,
Setagaya-ku, Tokyo, 154-0004

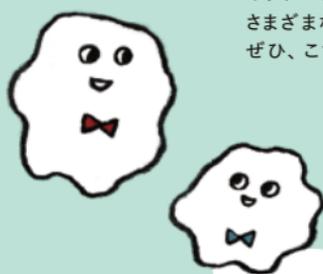


<https://www.setagaya-ldc.net>



5月1日に
リニューアル
しました！

生活工房のホームページでは、
キッチンフェアリーのクラシーとカワルンが
さまざまな企画をレポートしています。
ぜひ、こちらをご覧ください。



クラシー (右)
カワルン (左)

生活工房ワークショップルームA・
コミュニティキッチンをめぐりに、
生活工房内をただよいながら
探検している妖精。
おもしろそうなイベントがあると、
ふわふわと姿をあらわします。